

# 1,100本の苗木を植樹

## 鳥取県植樹祭

「つなげよう 緑と海と 人の輪を！」をテーマに第53回鳥取県植樹祭が4月29日（日）、名和スポーツランドで行われ、約千人が参加して、植樹や式典を通して森林の大切さや役割を学びました。

式典では緑化功労者の表彰があり、大山町からは旧中山町森林組合の理事を16年務め、水源林造成、下刈作業の省力化を図った功績が認められた江原隆英さんが受賞されました。

「森林・みどりへの想い発表」では、大山小学校みどりの少年団を代表し、6年生の中井誓也さんと、藤谷晃成さんが間伐の

大切さなど林業について学んだことを発表しました。また、町内にIターンで移り住み、素潜り漁業を営む中村隆行さんは、初めて漁業をしたときから船を持つまでの体験談や、森林から流れ込む水が与える海産物への影響などを発表しました。

緑化活動として、参加者が会場近くの山にクヌギ、ケヤキ、ヒノキ約1,100本を植えました。米子市から参加したご夫婦は「2回目の参加です。植樹は記念に残るので楽しみにしてきました。木の成長を見にまた来たい」と話していました。



森林への想いを発表する大山小6年生



植樹をする参加者（名和スポーツランド横）

## 町の情景を歌に



著書を手にする山上明美さん

今年3月に出版された歌集「時の雫」の著者 山上明美さん（加茂）が「町内の方にもぜひ手にとって読んでほしい」と、5月8日、役場を訪れ、町へ著書の寄贈をしていただきました。

山上さんは「日常生活の中で感じたことを歌に詠んでいきます。一番力を入れたのは「恋」

の章。そして社会への強い訴えの章。しかし、明るい方向性を持つような構成にしたつもりです」と歌への想いを話しました。

出版のきっかけは、10年前自費出版した詩集が、出版社の目にとまったからとのことでした。

歌のテーマは幅広く、自然、政治、社会、環境などが、31文字の短歌に凝縮され、繰り返し読むほど心に響くような内容です。

寄贈していただいた著書は、町立図書館に置いてあります。ぜひご覧ください。

## 香取で春を満喫

今年で2回目となる「大山の春を楽しむまつり in 香取」が、4月29日（日）、香取ミルクプラントで開かれ、約300人が参加しました。ステージでは港ベンチャーズや、町内サークルのダンスなどが繰り広げられました。参加者は、高原の心地よい陽気の中、山菜天ぷらや、バーベキュー、ヨーグルトなど大山の食材を満喫しました。



演奏にあわせて軽やかなダンスを披露